



訪問ガイド 2026

プラド美術館

マドリード・から 18€

<https://museodelprado.visit-tickets.com/ja/>・優先入場チケット & 料金



起源 & 歴史

王族の夢が生んだ芸術殿堂

GOOGLE **4.7** ★★★★★ 156 933 レビュー

TIQETS **4.7** ★★★★★ 7 157 レビュー

18世紀末、スペイン王カルロス3世は啓蒙主義の精神に基づき、プラド大通り沿いに科学と芸術のための施設群を構想しました。建築家ファン・デ・ビラヌエバが設計したこの壮大な新古典主義建築は、当初「自然史博物館」として計画されましたが、時代の変化とともに絵画の殿堂へと転換されます。**1786年**にプロジェクトが承認され、建設はカルロス4世の治世まで続きました。

フランス軍の侵攻と独立戦争により、完成間近だった建物は兵舎として使われ、屋根の鉛板は弾丸製造のために溶かされるという悲劇を味わいました。戦後、フェルナンド7世とその妃マリア＝イサベル・ブラガンシアの尽力で修復が始まり、**1819年11月19日**に「王立絵画館」として静かに開館しました。初期にはわずか311点のスペイン絵画が展示されていましたが、これが後の世界有数のコレクションの始まりでした。

数世紀にわたりハプスブルク家とブルボン家の王族たちが収集した作品は、宮廷の歴史と変化する審美眼を反映しています。20世紀後半、建築家ラファエル・モネオによる拡張工事により、本館内で**1,300点**の作品を常設展示できるようになり、アクセス性と展示空間が大幅に改善されました。これにより、かつて見られなかった多くの名作が一般公開されるようになりました。

2021年、プラド美術館はティッセン＝ボルネミサ美術館やレナソフィア美術館と共に**UNESCO**世界遺産に登録されました。これはマドリード中心部に位置する密集した美術館群の唯一無二の性質を国際的に認めるものであり、ヨーロッパにおいて類を見ない文化的価値を持つことを示しています。現在もなお、そのコレクションは拡大し続けています。

体験

入場すると、ビラヌエバが設計した荘厳なドーム広間に迎えられます。高い天井から差し込む自然光が、壁面を飾る巨大な絵画を優しく照らし出します。足元の大理石の床が響く音、静寂の中での空気の揺らぎ、そして眼前に広がる色彩の洪水。ここは単なる博物館ではなく、時間を超えて対話をするための聖域です。ドーム下の光が、ペラスケスの《ラ・メニーナ》のような複雑な構図を最も美しく際立たせます。

迷路のような廊下を進むにつれ、ゴヤの暗黒的な筆致やボツシュの幻想的な地獄絵が次々と現れます。各展示室は独立した宇宙であり、訪問者は時代の移ろいの中で自分の感情を探求することになります。混雑を避けて開館直後に訪れることで、これらの名作を静かな集中力の中で鑑賞でき、作品との深い共感を得ることができます。



訪問の準備

実用的な情報

住所

マドリード中心部・メトロ：Buenavista駅（L1, L10線）から3分、またはCalle de Alcalá駅（L5線）から出口まで徒歩5分。

開館時間

季節や祝日によって開館時間が異なります。移動前にチケットで正確な時間帯をご確認ください。

料金

年齢に応じた無料入場あり（バリエーションを確認してください）。{promo}。

所要時間

3〜4時間あれば、ペラスケス、ゴヤ、ボツシュの名作を慌てずに鑑賞できます。半日あれば、ティッセン美術館やレイナ・ソフィア美術館との組み合わせも可能です。

写真撮影

展示室ではフラッシュなしの写真撮影が可能です。三脚とモノポッドの使用は制限されています。他の来館者の邪魔にならないよう注意し、掲示されたルールに従ってください。

対象者

プラド美術館はファミリー層からアート愛好家まで幅広く楽しめます。お子様には、ボツシュやゴヤの視覚的なシーンに焦点を当てるのがおすすめです。思春期のお子様はエル・グレコやルーベンスを好む傾向があります。

アクセス方法

アクセス & 交通手段



地下鉄

: Atocha impares — 6 min à pied

マドリード・アトチャ駅 (8 min)・Museo del Prado - Jardín Botánico (6 min)



バス

: Estación del Arte — 7 min à pied

マドリード・アトチャ駅 (11 min)・Museo del Prado - Jardín Botánico (8 min)



車

マドリード・アトチャ駅 (6 min)・Museo del Prado - Jardín Botánico (3 min)



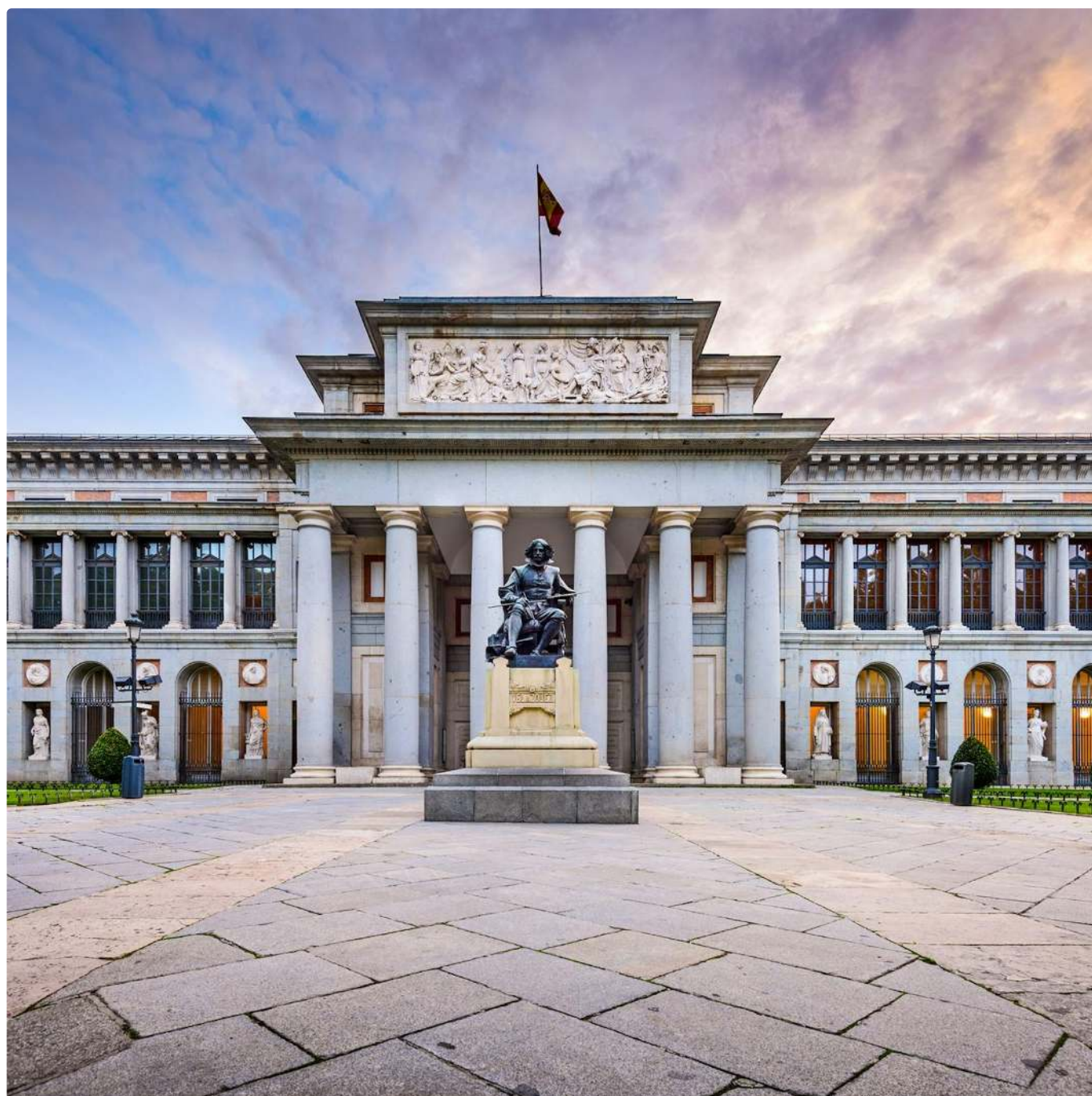
BiciMAD / 自転車

マドリード・アトチャ駅 (6 min)・Museo del Prado - Jardín Botánico (2 min)

Où se trouve プラド美術館？



 40°24.827' N, 3°41.528' O



組織

広大な館内を効率的に巡る方法

1階（メインギャラリー）

スペイン絵画の心臓部であるペラスケス、ゴヤ、エル・グレコの展示室が集中しています。《ラ・メニーナ》や《1808年5月3日》などの代表作はこのフロアで見られます。自然光が入る大きな窓のある部屋が多く、鑑賞環境は非常に良好です。

2階（イタリア・フランドル部門）

ラファエロ、ティツィアーノ、カラヴァッジョなどイタリア絵画の巨匠たちの作品が展示されています。また、ルーベンスやファン・ダイクによるフランドル風肖像画も見どころです。これらの部屋は色彩豊かで、バロック期の豪華さを体感できます。

モネオ翼（現代拡張部分）

ラファエル・モネオによって設計された現代的な拡張エリアです。以前は非公開だった多くの作品がここで初めて常設展示されています。ガラス張りの中庭があり、新旧の建築が調和した独特の空間となっています。

アクセシビリティ

車椅子アクセス

メインビルディングにはバリアフリー対応の入口とエレベーターが利用可能；詳細は公式サイトでご確認ください。

ファミリー向け

年齢に応じた子供無料入場のあるファミリーフレンドリーな美術館；ボッシュとゴヤの視覚的な作品に焦点を当ててください。

オーディオガイド

フランス語, 英語, スペイン語



必見スポット

選択

絶対に外せない必見の名作たち

01

ディエゴ・ベラスケス 第56号室

宮廷女官たち（ラ・メニーナ）

スペインのバロック芸術における絶対的なアイコンです。画家自身が鏡の中に写っている巧妙な構図と、光の使い方に見事な技術力が示されています。王室の権威と人間性を同時に描いたこの作品は、鑑賞者の想像力を刺激します。

💡 この絵は元々国王の寝室に掛かっており、鏡の中の人物が誰なのかについては長年議論が続いています。

02

フランシスコ・ゴヤ 第86号室

1808年5月3日

フランス軍による処刑場面を描いた、ゴヤの最も有名な作品の一つです。中央に立つ白いシャツを着た男性の絶叫と、背景の暗闇とのコントラストが強烈な感情を呼び起こします。戦争の悲惨さと人間の尊厳を問うこの絵は、見る者の心を深く揺さぶります。

💡 ゴヤはこの事件を目撃した後、黒い絵画シリーズを通じて戦争の恐怖を描き続けました。

03

ヒエロニムス・ボッシュ 第10号室

楽園の園

三連画の左翼にあたるこの作品は、エデンの園の平和な情景を描いています。しかし、細部をよく見ると、禁断の実を食べようとするアダムとイブの緊張感が感じられます。ボッシュ独特のファンタジックな動物や植物が、現実と幻想の境界を曖昧にしています。

💡 ボッシュの作品はしばしば宗教的な警告を含んでおり、地獄の風景と同様に解釈されるべきです。

04

エル・グレコ 第28号室

オルガス伯夫人の葬儀

キリスト教の聖人伝説に基づくこの作品は、エル・グレコの独特なスタイルを示しています。引き伸ばされた人体と、神秘的な光の使用は、彼の精神的な深さを反映しています。地上の葬儀と天上の栄光が一つの画面に統合されている点が特徴的です。

💡 この絵は元々教会のために制作されましたが、世俗的な要素が含まれているため、批判を受けました。

05 ディエゴ・ベラスケス 第57号室

ポルトの眺望

ベラスケスがフランス旅行中に描いた風景画です。遠景の港町と前景の人物の組み合わせが、彼が風景画にも才能を持っていたことを示しています。光の反射と大気の見通しの良さが、地中海の明るさを捉えています。

💡 この作品はベラスケスの生涯で少数派の風景画の一つであり、旅の記録としての価値もあります。

06 ディエゴ・ベラスケス 第55号室

牧神の休息

静物画と風景画の要素を組み合わせたこの作品は、ベラスケスの多才さを示しています。果物や野菜の鮮やかな色彩と、背後の牧歌的な風景との対比が興味深いです。日常の豊かさと自然の美しさを同時に表現しています。

💡 この絵は元々王宮の食堂に飾られており、食事のシーンの一部として機能していました。

07 フランシスコ・ゴヤ 第87号室

自画像

ゴヤの晩年の自画像です。鋭い目つきと、やや疲れた表情が、彼の内的な葛藤を反映しています。背景の暗闇の中で浮かび上がる顔は、孤独と決意を感じさせます。ゴヤのキャリアの終盤における心理状態を垣間見ることができます。

💡 ゴヤはこの時期に聴力を失っており、孤立感がこの表情に影響を与えた可能性があります。

08 ラファエロ 第20号室

聖母子像

ラファエロの典型的な聖母子像です。穏やかな表情と、完璧なバランスの構図が、彼の卓越した技術を示しています。マドンナの優しさイエスの無垢な愛が、鑑賞者に安らぎを与えます。ルネサンス期の理想的美の象徴です。

💡 ラファエロは短い生涯にもかかわらず、数百点の作品を残しました。

アドバイス

最高の体験のための実践的アドバイス

TIMING

開館時間に合わせて到着してください。ベラスケスとゴヤの展示室は開館直後から混雑します。正午の学校団体が多い時間帯は避けることをお勧めします。

BILLET

ハイシーズンや週末は事前予約が強く推奨されます。優先入場券を購入すれば、行列を避け時間を節約できます。オーディオガイドの有無によるプランを比較しましょう。

PARCOURS

入場時にマップやオーディオガイドを取得し、注目すべき作品を特定しましょう。まずスペイン絵画の心臓部（ベラスケス、ゴヤ、ボツシュ）を優先し、その後イタリアやフランドル部門に進むのが効果的です。

PHOTO

展示室ではフラッシュなしの写真撮影が可能です。ただし、三脚とモノポッドの使用は制限されています。他の来館者の邪魔にならないよう注意し、掲示されたルールに従ってください。

PAUSE

美術館内のティーサロンや、近隣のシベレス広場のテラスで定期的に休憩を取ってください。特に家族連れの方は、子供たちのために十分な休憩時間を確保しましょう。

ENFANTS

お子様には、ボツシュやゴヤの視覚的なシーンに焦点を当てるのがおすすめです。これらの印象的なイメージは、古典的な肖像画よりも子供の注意を引きつける効果が高いです。

AUDIOGUIDE

オーディオガイドは、選択したプランに応じて別料金または含まれている場合があります。購入前にチケットの内容を正確に確認し、不要な追加費用を避けましょう。主要作品の解説には特に価値があります。

CONFORT

建物は広大なので、歩きやすい靴を履いてください。クロークサービスを利用し、軽量のバッグでご来館されることをお勧めします。大きなスーツケースは事前に公式サイトで許容サイズをご確認ください。



よくある質問

よくある質問

事前に予約は必須ですか？

はい、ハイシーズン（7月～8月、学校休暇期間）や週末は事前予約が強く推奨されます。休暇以外の平日は窓口で購入を試みられますが、平均して30～45分の待ち時間を見込んでください。日程が決まり次第、午前中の枠を確保するために早めの予約をおすすめします。

キャンセルはいつまでに可能ですか？

購入したプランによって条件が異なります。訪問24時間前までの無料キャンセルが可能となる場合もあります。購入確認メールの詳細をご確認ください。日程変更がある場合は、損失を避けるため速やかにカスタマーサービスにご連絡ください。

現在プロモーションはありますか？

グループ、学生、またはマドリッド在住者向けの一時的な割引が存在する場合があります。購入時の表示価格が基準となります。恒久的なプロモーションを保証するものではありません。確定前に各プランを比較し、可能な優遇措置を活用してください。

予約後、時間帯を変更できますか？

変更はチケットの種類と新しい枠の空き状況によります。柔軟なチケットでは簡単な変更が可能ですが、そうでない場合もあります。適用される正確な手順については、確認メールと公式サイトをご参照ください。

見学にはどのくらいの時間がかかりますか？

主要作品を急がずに鑑賞するには、最低でも3～4時間を確保してください。ベラスケス、ゴヤ、ボツシュに焦点を当てたコースなら半日で十分です。イタリアやフランドルの展示室を深く探求したい場合は、さらに時間を確保してください。

ご存知ですか？

エピソード & トリビア

UNESCO世界遺産への登録

2021年、プラド美術館、ティッセン＝ボルネミサ美術館、レナソフィア美術館はUNESCO世界遺産リストに共同で登録されました。この認定は、マドリッドの中心部に位置するこの密集した美術館群の唯一無二の性質を強調しており、ヨーロッパの他の地域ではほとんど例を見ません。

王族コレクションの起源

プラド美術館のコレクションは、ハプスブルク家とブルボン家によって数世紀にわたって集められました。各王朝はその痕跡を残し、スペイン宮廷の歴史とその変化する芸術的趣味の忠実な反映を生み出しました。

Moneoによる拡張工事

隠されたコレクションの規模

博物館周辺

プラド美術館はマドリード中心部の「黄金三角」に位置しており、周辺には充実した文化施設があります。徒歩5分圏内にあるティッセン＝ボルネミサ美術館では、ルーベンスやティツィアーノの傑作を楽しめます。また、ピカソの『ゲルニカ』で知られるレナソフィア美術館も近くにあります。休憩には、シベレス広場のテラスや、緑豊かなレティロ公園が最適です。アルムデナ大聖堂も徒歩圏内にあり、マドリードの歴史的景観を一望できます。食事は、プエルト・デル・ソル周辺の伝統的なレストランでスペイン料理を楽しむのがおすすめです。



プラド美術館での体験は、単なる視覚的な楽しみを超え、魂を揺さぶるものです。ベラスケスの巧みな描き方、ゴヤの激しい感情表現、ボッシュの想像力の飛躍に触れることで、あなたは西洋美術の核心を理解するでしょう。この経験は忘れ去られることがなく、あなたの人生観さえ変えるかもしれません。ぜひ、自分の目で確かめてください。